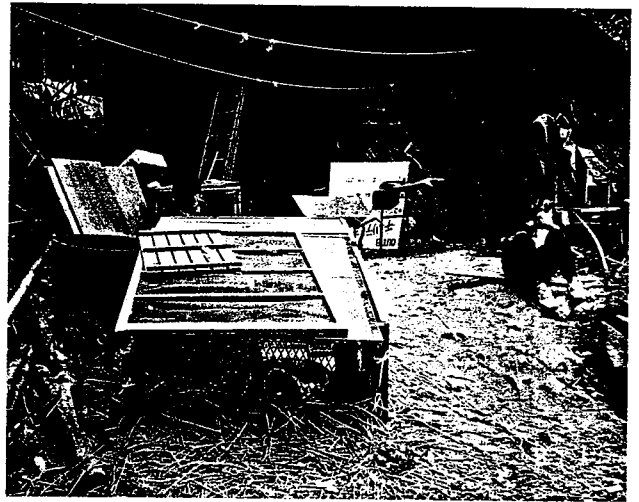




子犬のための犬舎

に見つけられるんですか。

オリバー どちらもありますね。一番多いのは、飼えなくなったから預かってほしいと言われるケースですけど、それは預かることはできません。きりがありませんから。

編集部 そんなときは、どうされるんですかオリバー そのときは、なぜ飼えないのかを聞いて、アドバイスをします。保健所に連れていくのであれば、日本動物福祉協会のセンターが西宮にありますから、そこを紹介しています。そこがしばらく預かって、安楽死さ

せますね。保健所と違って、本当の安楽死です。保健所は最後の一分は安楽ですけど、それまでがものすごく地獄ですね。日本動物福祉協会のセンターには、そういう犬が年間一万匹、一日平均三十匹ですね。でも、春はものすごく多いですね。

編集部 預かる期間はどのくらいですか。

オリバー 期間がいつばいになったら安楽死させます。それまでは、愛情いっぱい預かります。

編集部 定められた期間はないわけですね。

オリバー そうです。場所さえあつたら、預かってますね。

編集部 オリバーさんのところには、年間どれくらい来るんですか。

オリバー 子犬は二百匹から三百匹です。

編集部 じゃあ、増える一方ですか。

オリバー そう。子犬はいままで九〇%以上もらっています。成犬が一番心配。時々、ものすごい病気になるったり、人を噛む犬が入ってきます。そういう犬はここでは預かれませんが。虐待された犬は、ここに三、四匹います。そういうのは預かります。

編集部 虐待された跡があつたんですか。

オリバー そうです。

編集部 結果として、野良犬(捨て犬)になっている犬ですね。

オリバー そうです。捨て犬です。野犬は人間に関係ないですけど、野良犬は人間の責任が大きいですからね。

編集部 こういうことを、何年前に始められたんですか。

オリバー ここは四年です。十五年前からこの近くの町に住んでいましたけど、場所が狭かったんで、拾った犬は、ほとんど日本動物福祉協会のセンターに連れて行きました。そこは安楽死させますから、もっといい方法がないかと思いました。もっと広い土地があつて、もう少しばかり犬を預かれたら、チャンスが増えると思いました。でも、問題は、増えすぎたら困るから。

編集部 ここは何坪あるんですか。

オリバー 千坪あります。でも、だんだん狭くなってきました。

編集部 いずれにしても、限界はあるでしょうね。

(オリバーさんは、ボランティアの女性に、葉っぱの掃除と犬舎の掃除をするように依頼